

ふれあい工房

(桜江町)

み た じ
三 田 地

地域の概要

峡谷の間にわずかに広がる平地と、石見町日和へつづく狭小な1本の道路沿いに点在する住宅があり、立地条件の厳しい集落である。

取り組み概要

1 経過

これまで2～3人の小グループで行ってきた農産加工も高齢化で規模が縮小するなど多くの課題を抱えていた。このため、当事業での話し合いによって集落全戸の参加で農産加工を行うという計画がまとまり、梅漬け等の漬物加工やワラ・竹細工等を行い、高齢者等の生きがいの場づくりと特産品の開発等を行い、集落の活性化への気運が高まった。

2 取り組みの状況

① 工房の整備

雨漏りしていたが、屋根の修繕ができて安心して作業ができるようになった。この工房を利用して世代を越えたふれあいのある活動をしていきたい。

② 漬物の加工技術を身につける

講師を招き、3回の講習会を開催した。加工等を3回実施し延べ77人の参加があった。講習会では、全体の流れ等を学び、今後の活動に向けて良い講習となった。今後も梅やスーメンの漬物を加工し、おいしい漬け物ができるよう研究し、販売につながるようにしたい。

③ 細工技術を身につける

ワラ細工、葛細工など、講師を招き3回の講習会を行った。延べ51名の参加があり、しめ縄や、葛の籠の作り方を習った。今後は売り物となるような商品の開発にも力を入れていきたい。

3 成果

初年度は、漬物加工は、色合いは上出来、少し塩分が多いようだったが、全体として上出来で、地元で喜んで買ってもらった。しめ縄づくりも良いものができるようになり、各自持ち帰り

集落データ

●市町村名 桜江町
●戸数 17戸
●ジャンル 産業

●集落名 三田地
●高齢化率 51.1%
●策定年度 平成11年度

正月のしめ縄となった。藁細工も1日に一人2～3個でき、各自家で利用したり、友人にあげたりしている。工房も雨漏りの心配がなくなり、安心して作業が出来るようになった。今後も続けて活動し、技術の向上と集落の活性化を目指し集落全体で頑張っていきたい。

皆で何かを作るという共通の目的ができた。2年目は経験者が教える立場となり共に熱心に取り組んでいる。

4 課題

- ① 販売方法の検討、現在は地域の祭り等で販売しているが、もっと広く販売し、収入が増えることにより、やる気も出てくると思う。現在は価格を高くすれば売れず、低くすれば赤字となっている。
- ② 販売ルートの確保、販売の数量が安定すると、目標ができればもっといきいきと活動できると思う。



今後のビジョン

今後も引き続き工房でより一層良い商品を作り、販売量を増やし、商品の開発にも力を入れたい。

若い世代から木工細工を行いたいという声もあり、若い世代の力を十分に生かした活動も取り入れていきたい。

集落代表者の声

集落全員で取り組むのは、年代を超えた交流ができ、大変良かった。みんな一生懸命に取り組み、完成したときは嬉しそうで、ふれあいの場として十分な効果があったと思う。今後はより良いものをつくり収入を増やしていきたい。

問い合わせ先

桜江町役場 総務課
☎0855-92-1211 (代)

ふれあい広場を中心に全員楽しく元気

(浜田市)

ちから いし にし
力石西

地域の概要

浜田市の西に位置し、集落周辺は山林に囲まれている。農業等後継者不足による耕作地放棄が目立ち、また以前からイノシシによる農作物への被害が非常に多く農業を行うにも頭を抱えている状態である。

取り組み概要

① 経過

平成11年8月に市の概要説明を受け町内全員で話し合いを行い、その後役員会や定例会において意見を集約した。意見では地域の緊急避難所にも指定されている公民館施設の改修、ふれあい広場の整備、道路環境整備、周辺集落との地域交流等の多くの意見が寄せられた。

この集約された意見を踏まえ、平成12年4月に準備会を設立し、全員の要望をなるべく拾えるよう事業案を協議した。最終的に全地区民交流できるふれあい広場及び公民館の設備を充実するための事業案を策定し、平成12年12月に集落活性化プランを市に提出している。

② 取り組みの状況

周辺には陽光台町内（62世帯、149人）があるが、隣接しているにもかかわらず交流が少ないことが現状としてあったため、自治会事業として盆踊りやグランドゴルフ大会等を行うためのふれあい広場の設備充実を図った。

また、公民館活動における夏場対策として扇風機を購入し、さらに環境意識を高めるため、ゴミステーションも整備した。

- ・ふれあい広場の照明及び放送設備の新設
- ・グランドゴルフ用具の購入
- ・ゴミステーションの整備
- ・扇風機（5台）の購入

購入したグランドゴルフ用具を活用して第2及び第4日曜日にグランドゴルフ大会をふれあい広場で実施している。

それ以外でもふれあい広場にて運動会、盆踊り大会、老人会のベタンク大会等も行っており、地域の交流事業として楽しんでいる。

に暮らしたい

集落データ

- 市町村名 浜田市
- 戸数 20戸
- ジャンル 文化、環境・景観
- 集落名 力石西町内
- 高齢化率 36%
- 策定年度 平成12年度

3 成果

ふれあい広場における照明設備及び放送設備の新設により盆踊り大会やグランドゴルフ大会などふれあい広場を中心とした交流機会が増え、自治会事業が活性化している。

周辺の力石東町内、陽光台町内との交流により地域の結びつきが広範囲に広がり集落住民の日常生活や集落機能強化にもつながっている。

4 課題

- ① 子どもが少ない
- ② 20代～30代の若い世代が少ない
- ③ 農業における後継者不足
- ④ 高齢化世帯が増加傾向にある



今後のビジョン

今後は力石自治会（力石東町内、力石西町内、陽光台町内）として複数集落の連携により集落機能の維持活性化を図る。

集落代表者の声

力石自治会会長 清井 幸

補助金によりふれあい広場や公民館設備等を整備したおかげで地域活動がやりやすくなった。以前は夜の集会に集まるのにも照明がなかったため、帰宅時に事故等が起こったこともあり、この照明のおかげで安全に集会などを行うことができるようになった。

また、グランドゴルフ用具の購入によりみんなで交流する機会が増え、特に高齢者には定期的な楽しみが増え、我々としても非常に喜んでいる。

今後もふれあい広場や公民館力石自治会としてより広く交流を続けていきたいと考えている。

問い合わせ先

浜田市地域政策課 地域振興係
☎0855-22-2612（内線342）

いきいき「はっしいの里」

みんな みんな いっしょに、き・ん・さ・い・や)

(江津市)

はし
波子(波子地区連合自治会
波子第1区～第13区)

地域の概要

当集落は江津市の西端に位置している。近年、高齢化、少子化が一層進み集落の活力・活気は年々低下している。通年型大型施設海洋館「アクアス」に隣接しており、夏には多くの海水浴客でにぎわっている。

取り組み概要

1 経過

近年、高齢化・少子化が一層進み、耕地は荒れ、空き家は増え、集落の活力・活気は年々衰えている。そこで、ここに町内の中高年層を中心として、いきいき「はっしいの里」を組織し、地区内にオープンした「アクアス」のエネルギーに負けないように、地域の自然、人材、素材、中高年者の経験と知恵、知識を結集して活力ある「町づくり」をめざす。

2 取り組みの状況

- ① はっしいの里 食品加工部
 - ・波子駅会館に調理室を設置して、食品の加工生産と販売
 - ・新製品の開発と研究
 - ・調理技術の習得と伝承
 - ・調理用厨房器具・学習用設備と備品を揃える
- ② はっしいの里 手芸部
 - ・波子駅会館を作業所にし拠点とする
 - ・会館を拠点として技術の向上及び継承を行なう
 - ・伝承工芸及び新ブランド品の開発を行い地域の活性化に資する（アクアスへ積極的に参加）
 - ・生産加工用の縫製等工具・器具を揃える
- ③ はっしいの里 福祉部
 - ・波子駅会館を各種団体・グループが利用、集合できるように長机、その他各種備品を揃える
 - ・パソコン教室開催の為の設備及び機械器具等を設置する
- ④ はっしいの里 営業部
 - ・遊休耕地の復活と地域産業の活性化推進
 - ・特産品（農産物）の開発、普及
 - ・花一杯運動の推進と製品の発掘
 - ・1～3、までの事業を進めるための施設、機械の整備（倉庫、ビニールハウス、作業所、管理機など農具等）
- ⑤ はっしいの里 販売部
 - ・朝市を開催し売る人買う人を支援する（フリーマーケット）
 - ・営農部の生産物を販売する
 - ・地区行事に積極的に参加する

- 市町村名 江津市 ●集落名 波子(波子地区連合自治会 波子第1区~第13区)
- 戸数 32、21、27、26、38、25、27、25、33、36、42、56、20戸
- 高齢化率 31、60、34、40、44、40、25、42、45、34、40、26、38%
- ジャンル 文化、産業 ●策定年度 平成12年度

・事業を進めるために、天幕、コンテナ、リヤカー、机椅子、幟、ミキサー、白地備品を揃える

3 成果

地区住民が一体となって、いきいき「はっしいの里」を中心に食品加工・手芸・福祉文化・販売・営農等を一括統合して管理し、活動はそれぞれ独自に行なっている。各取り組みは順調で、集落では話し合い・勉強会も進み連帯感が出てきた。

4 課題

- ① 食品加工部
 - ・新年度から伝統食品（ちまき、鯖、鯖寿司等）の次世代後継者を対象にした「料理教室」を開設したい
 - ・地区内の行事（体育祭、文化祭等）に積極的に参加する
 - ・新製品の開発（お菓子、飲み物、おかず等）に取り組む
- ② 手芸部
 - ・会員個々の技術アップに力を入れる（各種出品店の見学）
 - ・地区内で、自然にある素材を製品化することにチャレンジしたい
 - ・親子手芸教室の開催
- ③ 福祉部
 - ・パソコン教室 今年度から、Eメールを教え、更に2期生の教室を開催する
- ④ 営農部
 - ・各自治会を通して会員の募集を行い、組織の強化と地区内の支援を得る努力を図る
 - ・農業改良普及員、JA指導員による定期的な勉強会の設定（野菜作り講習、視察研修等）
- ⑤ 販売部
 - ・朝市の周知徹底を図る
 - ・出荷者の組織を立ち上げる



今後のビジョン

海洋館「アクアス」のイベント時の参加を念頭に入れた計画を設定しており、波子駅会館の活用等、地区住民及び行政の協力を得ながら、官民一体となった観光産業の振興を図り、地区内各層各人の経験と知恵知識を結集して活力ある「町づくり」をめざす。

集落代表者の声

波子連合自治会会長 中村 景美

集落活性化事業の認可を受け、お手伝いをすることとなった。企画、立案能力のある、経験豊富な人材があり、その方々の努力に感謝しています。波子町の場合は、5つの複数事業内容で参加者は各部に、それぞれ所属しその集合形態で運営することが特徴です。

直接事業主体である各部の中から役員を選任したことで、事業を円滑に推進することができました。今は発足して満1年が経過し、会長を中心とし各部長をはじめ全員が一丸となり、熱心に、いきいきと活動し集落の信頼を集めています。

問い合わせ先

江津市 企画振興課
☎0855-52-2501（内線322）

いきおい復活いきいき伊木

(金城町)

い ぎ
伊 木

地域の概要

伊木集落は役場のある雲城地区にあり民家は広範に点在し、集落の北側は浜田市に接している。

平成14年4月時点で、人口110人、世帯数33世帯、高齢化率42%となり、平成11年4月時点より若者のUターンにより人口・世帯数は増加したが高齢化率は上昇している。

当集落は、地域内の泉源を活用し温泉施設を運営するなど独自の取り組みを実践している。

取り組み概要

1 経過

プランの策定に際しては、集落の全員の声を聞く事から始めた。その中で、高齢者からは、いつでも自由に使用できる場所整備、女性からは料理教室ができる調理施設整備の要望が多くあり、まずは集会所整備を行うこととした。新たに建設することも含め検討したが用地の確保や、建設に伴う多額の個人負担が困難なことから既存施設を改修することとした。

また、これまで続けている温泉運営を継続し、町内外から多くの人に来てもらうことや、豊かな自然に恵まれた自然を満喫できる雲城山への登山道を整備するなど、集落の特性を活用した活性化を行うこととした。

2 取り組みの状況

① 集会所整備

町の補助事業を併用することとし、高齢者や女性の意見をできるだけ多く取り入れた。

いつでも自由に使用できる談話室・集会室の整備、台所（調理場）整備、防湿対策を主に行った。

平成12年12月初めに着手し、翌年1月末において完成した。

② 伊木温泉の運営

平成7年から集落共有林に湧く温泉を活用した『伊木温泉』を建設し、住民の健康増進を図ることとした。週3日の営業ではあるが、今では近隣市町村をはじめ県外からの入浴客も増え、年間1万人を超えている。

3 成果

① 集会所整備により、高齢者のための『いきいきサロン』が開設でき、年数回ではあるが食事の提供ができるようになった。また、自由に集会所を使い余暇を利用し集まって、談話や趣味の手芸に取り組むなど生きがい対策となっている。

女性グループ『ほほえみの会』の活動拠点として、食生活改善のための料理教室の開催、住民の保健活動の充実、趣味のお菓子づくりや神楽の伝承活動をとおり、幅広い年代間でコミュ

プラン

集落データ

- 市町村名 金城町
- 戸数 32戸
- ジャンル 文化、環境・景観
- 集落名 伊木
- 高齢化率 41%
- 策定年度 平成12年度

ニケーションの向上を図り一層の連帯感が醸成されることが期待される。

- ② 伊木温泉の入浴料は大人300円、子供100円で週3日（水・土・日）営業している。施設管理や接客当番など温泉運営には、多くのお年寄りの協力を得ており、お客さんと接することで、家に引き籠らず積極的に社会参加されている。

この温泉では、湯茶、お菓子のほか、ゆでタマゴなどを無料提供するなど心暖まるサービスを心がけ好評を得ており、町内外をはじめ県外から年間1万人を超える入浴客がある。

4 課題

- ① 集落住民のコミュニケーション充実の取り組み
- ② 高齢者・若者・女性に配慮した取り組み
- ③ 共同営農組織の充実と休耕田を活用し伊木ならではの特産品づくり



今後のビジョン

Uターン者が増えたことは大変喜ばしいことではあるが、若者や女性の住み良い生活環境をソフト・ハード面で充実するとともに高齢者のための取り組みも行う。

集会所を拠点として、各種グループの活動の充実を図り、伊木温泉の運営も継続し集落の活性化をめざす。

恵まれた豊かな自然と農村環境を守り活用し地域間交流を推進するため『雲城山登山道の整備』『浜田川への鮎の放流』などへも取り組みたい。

集落代表者の声

伊木集落代表 佐々木昭則

この度、県事業が創設され集落づくりを住民全員で話し、それぞれのアイデアや集落に対する夢を語る事ができたことは大変喜ばしいことと感じたと同時に将来の目標に向け集落が一つになり協力して取り組まなければ、夢が夢で終わってしまうと思いました。

幸いにして、当集落は『伊木温泉』の建設、そして運営を行い成功した前例があり、また、平成11年以降Uターンにより人口が増加し、以前にも増したパワーが潜在しており、ひとつひとつの目標を着実に実行して行けば必ず集落の活性化は実現するものと確信しています。

集落活性化への取り組みの機会と支援をいただいた島根県に深く感謝申し上げます。

問い合わせ先

金城町役場 総務課
☎0855-42-1234

ホップ・ステップとくだ

(金城町)

とく だ かみ
徳 田 上

地域の概要

徳田上集落は金城町中央部の小国地区にあり、主要地方道沿いにある小さな集落である。
役場まで15km、浜田市までは25kmと離れ公共交通機関としては定期バスが朝夕のそれぞれ1便運行されている。
平成14年4月時点で、人口37人、世帯数10世帯、高齢化率38%となっている。
当集落では、以前から特産品として自然薯・ソバ・大豆の栽培、炭生産に取り組んでいる。

取り組み概要

① 経過

集落の全員の声を聞くため、アンケート実施しプランの策定に取り組んだ。
その結果、農地の湧水対策、農作業の共同化・軽減化、有害鳥獣対、特産品加工施設整備が大きな課題であった。
また、活用できるものとして、元気で技術を持つお年寄りが多くいること、活発な活動をしている女性グループがいること、花卉栽培農家があることが挙げられた。
このことから、活性化のための取り組みとして、湧水対策・農作業の共同化・軽減化のため『小型パワーショベル』『薬剤噴霧機』の購入、主要地方道沿いに『花の植え付け』などに取り組むこととなる。

② 取り組みの状況

① 農地の湧水対策、農作業の共同化・軽量化のための機械購入

集落の課題である湧水対策、農作業の共同化・軽量化のため『小型パワーショベル』を平成12年において購入した。
集落には重機の運転ができる高齢者が3名おり、これにより湧水溝を掘ることでの乾田化や自然薯栽培(穴掘り)などに活用した。
平成13年度では『薬剤噴霧機』を購入し受託・共同作業を行うとともに、共同機械保管のための倉庫を購入した。

② 環境づくり

隣接集落では、主要地方道沿いや玄関先に花を植えつけ明るい環境づくりに取り組んでいる。
集落に花卉栽培農家があることから、平成13年度において、原材料の提供や指導により道路沿線に花の植え付けに取り組んだ。
あわせて、ゴミ分別のための勉強会や集積場の整備も行った。

③ 特産品づくり

集落内で生産した大豆・ソバ・モチ米で女性グループが中心となり豆腐・ソバ・モチをつくり各戸配布した。今後、販売することをめざす。また、子供たちも参加を呼びかけ、懐かしい郷土料理づくりにも取り組んだ。

計画

集落データ

- 市町村名 金城町
- 戸数 9戸
- ジャンル 産業
- 集落名 徳田上
- 高齢化率 39%
- 策定年度 平成12年度

3 成果

- ① 機械購入により、集落の課題であった湿田の乾田化、農作業の共同化や軽減化がなされた大きな成果であった。あわせて高齢者の生きがい対策につながった。
小さな集落のため今後は、隣接集落との営農組織の立ち上げに取り組む気運が生まれた。
- ② 環境整備に取り組み、集落のイメージアップにつながり、住民の環境問題に対する理解と気運が高まることが期待できる。
- ③ 特産品の生産、販売をめざす気運が高まった。
全員が郷土料理づくりに参加したことにより連帯意識が強まった。

4 課題

- ① 隣接集落などと共同営農組織の立ち上げ。
- ② 隣接集落と共同し集落機能の維持、共同拠点施設の整備
- ③ 特産品の生産と加工品づくりのための施設整備・機器購入（できれば地域全体の取り組みとしたい。）



今後のビジョン

小国地区は、過疎化・少子高齢化が著しく、また、小規模集落がほとんどである。それぞれが取り組みを行うのではなく、地区全体として活性化の取り組みを検討する必要がある。

平成13年度において、小国地区では、出身者に呼びかけ「ふるさと交流まつり」を開催したところである。今すぐUターン定住は困難であるが、老後を出身地である小国へ帰って生活できるような環境、例えば、Uターン者でも農業ができるようなシステム（共同営農組織の立ち上げ）、特産品の生産から販売などのシステム構築などを地区全体の課題として、今後取り組まなければならない。

集落代表者の声

徳田上集落代表 田中 清春

これまで、個々には何か集落の元気づくりをしなければと思っていましたが、誰かがやってくれるのではというような期待と諦めの様なものがあり、集落内でこのことを検討することができませんでした。集落維持・活性化緊急対策事業が実施され、高齢者・若者・女性・子供たちも含め自分のこととして話し合い、取り組みができたことが何より良かったと思います。

この度は、男性から要望にあったものを中心に取り組みましたが、今後は女性から強い要望のあった、特産品づくりのための施設整備に重点を置き、平成12年度から実施した活性化への取り組みの継続と新たな事業にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。

小さな集落では限界がありますので、隣接集落あるいは地区全体での取り組みとして広がるよう期待し努力します。

問い合わせ先

金城町役場 総務課
☎0855-42-1234

世代間交流を通して、高齢者の知恵 伝統を伝え、共に学ぶ「リクエスト」

(旭 町)

き た き た
木田3・木田4

地域の概要

本集落は、旭町の北部の木田地区内で、役場から北へ約5km、主要地方道田所国府線沿いに位置している。現在人口93人で、この10年間で、4世帯18人が減少している。世帯数34戸のうち18戸が販売農家であり、約13haの農地に水稻栽培を中心に農業経営がなされている。

取り組み概要

① 経過

集落全体での協議では話題が進展せず、30代から50代の10名で検討会を組織して具体的に話を進め、協議内容を全体に図りながら高齢者の声も参考にして決定に至った。協議の内容については、高齢者の持つ知恵や経験を後世に残すことを主眼とするとともに、集落にとらわれず地域全体への効果や子どもたちの利用しやすさについても考慮した。

② 取り組みの状況

① 計画の立案

本道場の趣旨としては、世代間交流を通して、失いたくない高齢者の持つ知恵や経験を次の世代やあるいはその次の世代へと継承していくことにある。その内容は、農林業の技術伝授、木田地区の伝統芸能の伝承あるいは、昔遊びなどである。この交流により高齢者の生きがい対策すると共に、平成14年度からスタートする学校完全週5日制への対応をも考慮している。

本制度の仕組みとしては、定期的に決まったテーマで開催するのではなく、子どもたちや地区民などから要望（リクエスト）があったテーマについて、本集落が事務局となり関係機関へ依頼後開催するものである。

② 道場の竣工

道場の完成にあわせ、関係機関（自治会、公民館、婦人会、老人会、小学校、保育所、町担当者、農協、郵便局等）を招いて8月4日に竣工式を開催して、施設を披露した。その中で、本施設の趣旨や活用方法を説明して、今後の積極的な利用を依頼した。

本施設は壁がなく、風雨をしのぐための屋根があるだけのため、「土足でも 誰でもいつでも手軽に」利用できる道場として、また、できるだけ自然の中で交流や情報交換ができるイメージで建設した。

道場 48.5㎡ 東屋 8.7㎡

③ 道場の活用

地域の共同取り組み活動のあとの交流会等での活用。地域内の子どもたちが集まっての遊び

を教わり、 青空道場」

集落データ

- | | | | |
|-------|--------|-------|---------|
| ●市町村名 | 旭町 | ●集落名 | 木田3、木田4 |
| ●戸数 | 19、15戸 | ●高齢化率 | 46、35% |
| ●ジャンル | 文化、交流 | ●策定年度 | 平成13年度 |

場。高齢者が集まっての井戸端会議。地区内の各種団体の交流会の開催。など手軽に活用できる利便性からその利用率は高く、好評である

そして、地域内の伝統行事として、秋祭りの「花づくり」の場として、そして、年始の恒例行事である「とんど焼き」を開催し、あわせて子どもたちによる「餅つき」を取り組んで、多くの地区民の交流がなされた。



3 成果

集落内の人にとっては、共同取り組み活動時の拠点としての活用でき、また時には井戸端会議として活用することで集落内のコミュニケーションを図りより団結力が生まれた。

「秋祭り」や「とんど焼き」等の伝統行事を通して、異世代交流に取り組み、従来若い世代との交流が少なかった高齢者にとっては生き甲斐対策となった。と同時に、地域をあげた伝統行事への取り組みを通して、小学生や保育所などの子どもたちにとっては重要な体験となった。

4 課題

- ① 本施設の利用についての周知徹底が不十分。
- ② 子どもたちや地域内からのリクエストが少ない。
- ③ 運営や活動費が不足している。

今後のビジョン

まだ1年目ということもあり、なかなか認知されていないのが現状ではあるが、集落内にとらわれず、地域をあげた拠点施設として今後より有効な活用ができるよう、協力体制を整備することが望まれる。1年目は伝統行事を主とした交流となったものの、今後は、農林業の技術の習得や地区内の昆虫や植物の生態、あるいは、凧やコマなどの昔遊び等を世代を越えた交流を実施したいと考えます。また、利用方法にとらわれず、多面的に本施設が利用されるようオープンな施設としたい。

集落代表者の声

下木田地区活性化委員会委員長 岡村 弘幸

非常に高齢化率が高い現状の中、元気な集落づくりを目指すためには、多くの高齢者が元気であることが重要な要因の1つである。そのためには、若い世代との交流を通して、高齢者の持つ知恵や経験を継承することで、高齢者にとっては生きがい対策となり、また、若い世代にとっては、貴重な体験となる。さらに、この活動を通して、平成14年度からスタートする学校の週5日制に対しても活用できるものであり、地域の子どもたちを地域で支えることにより、休日の有効な活用を図るものである。

問い合わせ先

旭町役場 総務課
☎0855-45-1431